

令和元年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	SSH 特別講演会
日 時	令和元年5月17日（金）14時～15時45分
会 場	県立長岡高等学校 小体育館
対 象	理数科1・2年生158人
目 的	講演会を通じて科学に対する興味・関心を高め、今後の自分の生き方や進路を考えるきっかけとする。
内 容	ブラウン大学（アメリカ）地質学科 廣井孝弘様 による講演会 「はやぶさ・はやぶさ2と宇宙創成の神秘について」



アンケート 評価	① 関心をもって講演を聞いた。	A(あてはまる) 44%	B(ややあてはまる) 54%
		C(ややあてはまらない) 2%	D(あてはまらない) 0%
	② 講演の内容を理解できた。	A(あてはまる) 8%	B(ややあてはまる) 28%
		C(ややあてはまらない) 61%	D(あてはまらない) 3%
	③ 科学に対する興味・関心が高まった。	A(あてはまる) 49%	B(ややあてはまる) 46%
	C(ややあてはまらない) 5%	D(あてはまらない) 0%	
	④ 科学の意義や有用性への理解が高まった。	A(あてはまる) 51%	B(ややあてはまる) 44%
		C(ややあてはまらない) 5%	D(あてはまらない) 0%
	⑤ 自分の生き方や進路を考える上で参考にできた。	A(あてはまる) 41%	B(ややあてはまる) 44%
		C(ややあてはまらない) 13%	D(あてはまらない) 2%

感想など

“宇宙”については考えれば考えるほど疑問が生まれてくる。人間は地球を飛び出し宇宙へ行ったが、宇宙を飛び出すことはできるのか？と考えたりした。銀河系の映像を見ると、地球なんて見えず、果てしない数の星がある。そんな地球の中に自分たちは住んでいて、宇宙を見ている。認識はできるのに、果てしない宇宙との距離が神秘的で、またいろいろ想像できて面白いと感じた。

廣井さんの何事にも「なぜか？」と考えて突き止める姿勢を学べた。月のあることや地軸が23.4度傾いていることなど“生まれた時から当たり前だったこと”に目を向けること自体が、科学の意義ではないかと思った。そして、当たり前のことの意味を知れば知るほど、自分や周りの人が生きていることが偶然であり奇跡だと感じた。

私は講演を通して二つのことを考えました。一つは「人類の難題」についてです。例えば「人は死んだらどうになってしまうのか？」ということや「なぜ、地球は生物や科学的に都合の良いようにできているのか？」ということ。現段階でははっきり解明されていませんが、とても興味を持ってました。もう一つは、廣井さんの発表姿勢です。廣井さんは、発表しているというより、私たちに語りかけているようで、楽しそうに話してらっしゃいました。本当に、宇宙が好きなのだなぁと思いました。私も将来、自分の好きなことを仕事にしたいと強く思いました。

「科学的な事象を追及すると宗教的なところに行きつく」というのが深いと思った。さらに、自分の考えが周囲に理解されなくても、すぐにあきらめるべきではないということも学んだ。

講演を聞いて、地学は奥が深くて面白い。学びたい。と改めて感じた。そのためにも、今、自分がやるべきことをしっかりやろうと思った。新しい分野に興味を持てたり、勉強への意欲が増したりしたとても良い機会だった。難しかったけれど本当に楽しかった。

論文の発表時の宇宙風化否定派の言動が、昔の地球球体説や地動説がキリスト教に否定されていた時のように感じ、偏見の大きさを感じました。「はやぶさ2が、リュウグウに人工クレーターをつくった」という話をニュースで見っていたので、このためにつくったのかと納得できました。はやぶさ2が帰ってきて、研究結果が公表されるのが楽しみです。